

玉川上水・野の花だより No. 39

ヒガンバナ (マンジュシャゲ) *Lycoris radiata*

東京大学名誉教授 中央大学研究開発機構・機構客員教授

石川 幹子

2026年 9月21日

秋の野に、ひととき鮮やかに、ヒガンバナが咲きだしました。お彼岸の頃に咲くので「彼岸花」と呼ばれています。

別名は、マンジュシャゲ（曼殊沙華）で、サンスクリット語に由来するといわれています。お釈迦様が、「法華経」を説いた時、天から降りそそいだ花の一つと伝えられています。遙か昔に中国から渡来した花です。

数個の花が輪生して開き、全国の田畑の畦道などに咲いています。関東地方では、埼玉県日高町の「巾着田」の曼殊沙華は圧巻で、9月下旬から見ごろです。この地は、奈良時代に高句麗からの渡来人が住んでいた高麗郡が置かれたところで、曼殊沙華も長い伝統に支えられてきました。



花被片は、6枚あり細長く、曲線を描き外側に広がっています。雄しべ6本と雌しべは、細長く外にでていて、宇宙のエネルギーを虚空から取り込んでいるようにもみえます。シロバナヒガンバナも、咲いています。



ヒガンバナ（曼殊沙華）

2026年9月21日 稻荷橋～第二号橋



シロバナヒガンバナ

笹塚橋～北沢橋